

「財務三表」の基本構造

「財務三表」の基本構造

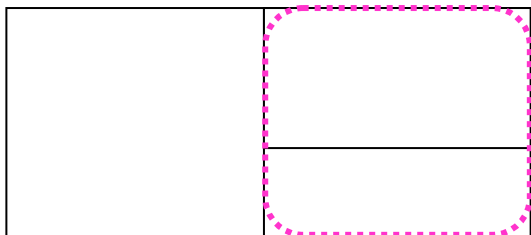
経営者・後継者にとって、計数の能力は必須なものである。しかし、意外と不得意に思っている人が多い。

そこでコンサルティングの現場で、計数が苦手だとこぼす経営者・後継者に向けて、「たったこれだけ分かれば大丈夫」とアドバイスしているポイントについて紹介したい。基本である「貸借対照表（バランスシート）」「損益計算書」「資金繰り表」、いわゆる「財務三表」について解説を行う。

I. バランスシートの本質

まず、貸借対照表（以下バランスシート）から説明したい。はじめに、【図1】のような長方形の三つの箱を書いてほしい。

【図1】 バランスシートの基本構造①



その三つの箱が、単純化したバランスシートである。【図1】の破線で囲んだ右側の箱には、どこから調達してきたお金を入れる。例えば、金融機関から借り入れたお金は「借入金」として右上の箱に入れる。前期に稼いだお金ならば、右下の箱に「利益剰余金」として入れる。

【図1】の左側の箱は、調達してきたお金を、どのように使っているかを示す箱である。例えば、土地を買って本社を建てたなら、科目を「建物と土地」として、投資した金額を入れる。残りを現金で金庫に入れて持っているなら、科目は「現金」としてその残高を入れる。

「右側には調達してきたお金を、左側には調達してきたお金をどのように使っているか」を示したものがバランスシートなのだ。

サンプルレポート

本レポートは、サクセスネットで公開している
ビジネスレポートの一部を公開したサンプルです。
サクセスネットサイトにログインした後、全文を
閲覧することができます。